

ステップ1 【日光総合会館・藤原総合文化会館廃止に関する判断資料】

◇文化会館3施設の現状

【建物状況】

	建築年度	築後年	延床面積 (㎡)	構造	階数	耐震化 (Is 値)	席数
今市文化会館	1976	4 2	3,742	SRC	地上 4、地下 1	実施済み	1066
日光総合会館	1972	4 6	5,679	RC	地上 2、地下 1	未実施 (0.65)	868
藤原総合文化会館	1973	4 5	3,158	RC	地上 3、地下 1	未実施 (0.4)	1222

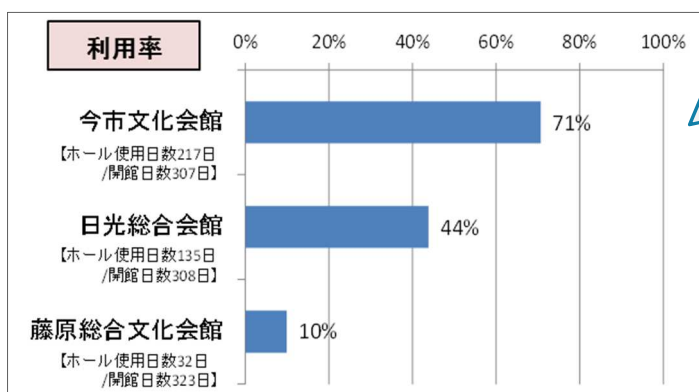
※Is 値：建物の耐震性能を示す指標。（建物の強度・靱性、形状やバランス、経年劣化などといった耐震性能に大きく関わる要素を総合的に判断する指標一般的な建物であれば「Is 値 0.6 以上であるか」がひとつの目安となる。）

- ・ Is < 0.3 …倒壊または崩壊する危険性が高い
- ・ 0.3 ≤ Is < 0.6 …倒壊または崩壊する危険性がある
- ・ 0.6 ≤ Is …倒壊または崩壊する危険性が低い

【課題と考察】

- 国が示す「官庁施設の総合耐震計画基準」において、社会教育施設、社会福祉施設として使用する官庁施設の Is 値は 0.75 以上が求められており、「日光総合会館」と「藤原総合文化会館」が基準を満たしていない。
- 全ての施設が築後 40 年以上経過し、老朽化・劣化の進行が著しい。
- 1 館に集約する方法として、いずれかの施設を改修して使用するにしても、耐震基準を満たしていない、日光、藤原を選択することはない。

【利用状況】



●ホールの入場者数別利用状況 (平成 23 年度～平成 27 年度の 5 年間の平均)

	今市文化会館	日光総合会館	藤原総合文化会館	計
1000 人以上	13 件	3 件	1 件	17 件
400 人以上 1000 人未満	29 件	9 件	5 件	43 件
400 人未満	128 件	111 件	31 件	270 件

(利用状況は H 27 年度調査結果)

【課題と考察】

- 日光、藤原のホール利用率は特に低い。
- 入場者数の状況からみると、400 人以上から 1000 人の規模については、全体の利用の内約 20% に満たない状況。
- 利用状況や当市の人口規模等を考察すると 1000 人規模の施設を 3 つ持つ必要性はない。

【コスト状況】

○既存文化会館等を今後 20 年間維持・改修等した場合のトータルコスト

単位:千円

施設名	1～5 年目 (H28～32 年度)		6～20 年目 (H33～47 年度)		合計
	改修費	ランニングコスト	改修費	ランニングコスト	
今市文化会館	改修費	2,166,636	改修費	1,110,221	3,276,857
	ランニングコスト	613,650	ランニングコスト	1,840,950	2,454,600
	計	2,780,286	計	2,951,171	5,731,457
日光総合会館	改修費	1,316,599	改修費	879,283	2,195,882
	ランニングコスト	438,220	ランニングコスト	1,314,660	1,752,880
	計	1,754,819	計	2,193,943	3,948,762
藤原総合文化会館	改修費	779,592	改修費	479,932	1,259,524
	ランニングコスト	352,650	ランニングコスト	1,057,950	1,410,600
	計	1,132,242	計	1,537,882	2,670,124
合計	改修費計	4,262,827	改修費計	2,469,436	6,732,263
	ランニングコスト計	1,404,520	ランニングコスト計	4,213,560	5,618,080
	3 館計	5,667,347	3 館計	6,682,996	12,350,343

今市のみ改修して 20 年間使用し続けた場合

施設維持使用するのに年間約 8,700 万円程度かかっている

施設維持使用するのに年間約 7000 万円程度かかっている

3 施設全てを 20 年間使用し続けた場合

※今市文化会館の改修費用には、一体施設である、中央公民館、勤労青少年ホームの改修費用も含む  
 ※既存 3 館のランニングコストは公共施設マネジメント白書で算出した各館コスト（H22 年度実績）から試算

【課題と考察】

- ホール施設は、施設規模（面積）が大きいため、大規模改修や建替えにかかる費用が大きい。
- 施設だけでなく、附帯設備機器等の更新についても、費用が莫大となる。
- 改修費だけではなく、施設用途の性質上、ランニングコスト（施設維持管理費用）も高額である。